

1. 学内からの視点

項目	評価基準	点検・評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○プログラム科目の履修状況の分析が実施できている。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当該プログラムの2023年度授業科目「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」は全学1年次生の必修科目であり、その履修者数は272名（教育学部104名、都市経営学部168名）であった。 ●授業各回の出席状況は出席管理システムによって把握している。また、授業ごとに課題を提示し、その制作物をアップロードさせることによって、各受講生の授業到達目標達成度を把握している。 ●2023年度の単位修得状況は、「データサイエンス基礎Ⅰ」が100%、「データサイエンス基礎Ⅱ」が95%であった。単位未修得の1年次生14名は、2024年度に再履修し、単位修得を目指すことになる。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラム科目の履修状況の分析が適切に実施されている。</p>	A
学修成果	○学生がプログラム科目の到達目標を一定以上達成し、学修成果を実感している。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラム「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」の成績評価によると、80%以上の学修成果を収めた受講生が約9割を占めており、大部分の受講生は本プログラムが求める知識・技能等を概ね修得できたと考えられる。 ●本学では卒業研究等の一部科目を除く全授業科目を対象に授業評価アンケートを実施しているほか、数理・データサイエンス・AI教育検討会議において、本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」を対象に、2023年度、授業内容の理解度等を把握するための授業アンケートを独自に実施した。これらのアンケート結果を通して、受講生の学修成果の実感度や、授業内容・授業方法等の問題点を把握することができ、授業担当教員と共に、より学修成果が上がるような授業内容や授業方法の検討を行っている。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラム科目の到達目標の達成度を把握した上で成績評価が実施され、その結果大部分の受講生が高い水準の評価を得ている。また受講生の学修成果の実感度についても把握され、授業内容等の改善につなげられている。</p>	A
学生アンケート等を通じた学生の理解度	○学生がプログラム科目の内容を理解している。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」では独自の授業アンケートを実施しており、数理・データサイエンス・AI教育検討会議においてアンケート結果から授業内容の理解度等を分析している。2023年度は両科目のべ256名の回答があり、両学部合わせて91%の学生が数理・データサイエンス・AIに関して理解できたと肯定的に捉えており、87%の学生が興味・関心をもったと回答している。総合的には、本授業の内容に満足したと93%の学生が回答しており、概ね良好な理解度であると考えられる。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、アンケートを通じて把握した受講生の理解度はおおむね良好であった。</p>	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生がプログラムを他の学生に推奨できる。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本プログラムの「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」は必修科目であり、教育学部および都市経営学部の両学部生とも1年次に必ず履修することとなっている。そのため、後輩学生への推奨度によらず、全新生はこれらの授業科目を必ず履修することになるが、上記授業アンケートの結果によると、本授業内容への満足度が93%であったことから、後輩学生への推奨度は高いと考えられる。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、アンケート結果を踏まえると、他の学生への推奨度は高いと考えられる。</p>	A
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○全学生の履修が達成されているか。	<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2023年度の入学者から全学必修としているため、2026年度末に全学生の履修を達成できる見込みである。 <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、必修科目として全学生の履修が達成される見込みである。</p>	A

2. 学外からの視点

項目	評価基準	点検・評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業生や就職先等から意見聴取し、活躍状況等を把握する。	<p>【点検結果】</p> <p>本プログラムは2023年度に開始したため、2023年度末の時点で本プログラムを修了した卒業生はいない。そのため、今後、本プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握するための卒業生調査や、就職先となる民間企業・公務員団体に対して企業調査を計画し、本プログラム修了者の採用状況や企業評価を把握する仕組みを設計して実施する予定である。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、卒業生や就職先等への調査内容や調査方法については、今後の課題として残されている。</p>	—
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○産業界からのニーズ等を把握する。	<p>【点検結果】</p> <p>●2023年度に福山市の企業111社に対して質問紙によるアンケート調査を実施し、47社（約42%）から回答が得られた。その結果、情報リテラシーや情報通信技術、情報倫理、情報セキュリティ、情報発信能力が業務上重要であると、9割前後の企業が回答した。また自由記述による回答を通して各企業の要望を把握することができた。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、産業界からの当該プログラムに対する評価や要望を把握することができている。</p>	A
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○プログラム科目の履修を通じて「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を学生に伝える。	<p>【点検結果】</p> <p>●本プログラム「データサイエンス基礎Ⅰ」「データサイエンス基礎Ⅱ」の第1回授業において、当該科目の授業内容が今後の学生生活や卒業後の実社会においてどのように活用できるのか、また、実社会においてどのように活用されているのかに関して、具体的な事例等を示しながら説明しており、本プログラムの授業を積極的に受講することの重要性や、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識や技能を修得する意義の周知を図っている。また、学生アンケート等に基づいて、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を適切に伝えられるよう、授業内容や授業方法についての改善を図っている。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラム科目の履修を通じて学生に「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を伝える取り組みがなされている。</p>	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○プログラム科目の改善につながる取り組みがなされている。	<p>【点検結果】</p> <p>●数理・データサイエンス・AI教育検討会議と授業担当教員が協力して学生アンケートおよび地域経済界からの意見を分析し、社会情勢の変化や地域社会の要望を考慮しつつ、学生が身につけるべき数理・データサイエンス・AIに関する知識や技能等の内容について再検討を行っている。また、そうした知識や技能等を学生が十分に修得できるよう、「分かりやすい」授業内容や授業方法の検討も進めている。</p> <p>【評価結果】</p> <p>上記の点検結果のとおり、プログラムを改善・進化させるための体制を通じた授業改善が図られている。</p>	B

各項目の評価は、福山市立大学自己点検評価委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。